

『本部』反動暴力分子の裏切りを許さず 35万人体制攻撃粉砕

日刊 動労千葉

79.12.23 No. 43 全国版

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
〔鉄電〕二五八〇九・(公衆電話)七二〇七

報復的・不当処分攻撃をつき破って、激闘の八〇年へ！ 動労千葉は団いり突入する。



密集する反動をうち破る闘い

全国の動労組合員の皆さん。
動労千葉は12月22日、第1回支部代表者会議を開催し、年内に行われる10・22(11・1)ストをはじめとする闘いへの不当処分粉砕の闘いを第3回定期大会で確認した。「35万人体制攻撃粉砕の闘いと結合した三里塚・ジェット闘争を水路に80年代を闘い抜ける自前の労働運動」を体现する闘いとして展開する具体的闘争方針を確立しました。鉄労新聞と見まごう「動力車新聞」(一三〇九号)のトップ記事として、高木総裁と八畝委員長の機関車へのアベック添乗を、あたかも「闘い」であるかのように描き出す、「本部」の裏切りと闘う動労千葉の対比はさらに鮮明に突き出されています。

国鉄当局は、「本部」反動暴力分子との8ヶ月間の激闘に勝利し、新組合結成後半年余で10・22(11・1)の二波のストライキを貫徹し抜くところまで組織強化をかちとった動労千葉に対し、階級的憎悪をむき出しにした報復的・不当処分攻撃を年内にも強行することが想定される情勢にあります。

動労千葉第1回支部代表者会議はこの間の動労千葉の闘いが、闘争の前進と広範かつ重層的な真の支援・連帯をかちとる一方で体制的危機を侵略と反動の政策をもって乗り切ろうとする大平・自民党政府、35万人体制を何としてもやりとげなければならぬ国鉄当局、資本の側へ身をすり寄せることによって生き延びようとする右翼的労組幹部、当局の武装親衛隊として動労千葉破壊に動労私物化を画策する「本部」反動暴力分子等々の密集する反動を生み出し、これらの反動総体の願望を体现するものとして、今回の不当処分攻撃策動に見られるような弾圧がかけられてくることは必然であるとして止め、この密集する反動を打ち破ることなしに、激動の80年代において、35万人体制攻撃粉砕も、三里塚・ジェット闘争の勝利も展望することができないのだということを改めて確認した上で、この不当処分攻撃を断固粉砕してゆく闘いを、年末・年始にかけて闘い抜く決意を打ち固めました。

高木・八畝のアベック添乗で 事故問題が解決するのか!

年末ギリギリに不当処分を策動してくるやり方

に対し、動労千葉は、年末・年始輸送との関連も含め、減産および非協力闘争を主体に、保線合理化に起因する運転保安上の問題点や整備民託等35万人体制攻撃粉砕の具体的闘争課題と結合した闘いも含め、長期的戦略にもとづいた柔軟かつ原則的な戦術を駆使して反撃してゆきます。

「本部」反動暴力分子の「労使が共通の認識をもって事故問題にあたる」「全組合員が運転事故を起さないように業務上の努力をする」のが「動労の姿勢」だと、動力車新聞のトップ記事で、恥し気もなく打ち出す方向性で、職場・生産点で労働者が現実に直面している問題が解決するのでしょうか。

「事故」について「労使の共通の認識」などあり得るのでしょうか。

「本部」反動暴力分子の「安定宣言」路線の行き着く先が、結局、労働者に対する裏切りであり、鉄労以下の「当局の武装親衛隊」の姿が今ほど鮮明になったことはありません。

全ての動労組合員は今こそ決起してこの反動と裏切りを打ち破らなければなりません。

全国の動労組合員のみなさん。

動労千葉は「事故の元凶は国鉄合理化である」という船橋事故闘争勝利の原点に立ち切って、35万人体制攻撃に立ち向い、三里塚・ジェット闘争をはじめとする地域住民との連帯を一層強固に打ち固め、真に闘う全労働者・人民の決起の中から勝利するという労働運動の大道を着実に前進する決意です。

動労大改革へ向けてともに闘いましょう。